

# 「インシュアテック&DX」セミナー開催

## DX実現に向けた戦略解説

シナモン AI

インシュアテック企業のシナモン AIは昨年11月25日、「インシュアテック&DX」と題したオンラインセミナーを開催した。家田佳明代表取締役副社長が保険業界におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）やDXを実現するAI活用戦略「ハーベストループ」の事例などについて解説した。当日は保険会社を中心に約70人のDX推進・企画業務担当者らが参加した。

家田副社長



多様化により、リスクの粒度をより滑らかにしたり、リスクを取らず視野を広げたりすることが可能になる他、消費者は「自分に合った保険を購入したい」というニーズがますます高まるとい

た。DXの実現に向けて同社が提唱するAI活用戦略「ハーベストループ」は単なる技術活用ではな

は、データ取得からエンドバリューまでを一気通貫で行うループ構造を作り、永続的にAIのモデル開発を行うことで競争力あるいは競争優位性に転化するものだとし、「このモデルを活用すると、AIがどのように強化されていくかがビジネスアル化され、より理解することが可能だ」と述べた。

その上で、米国のレモネード社のUX（ユーザーエクスペリエンス）向上の取り組み、自動車保険提供者向けに保険申請ソリューションを提供している米国のClaim Genius社の業務効率改善の取り組みなどについて、「ハーベストループ」に基づいて考察した。

最後に、「ハーベストループ」を軸にした新規事業推進や組織変革推進の他に同社が提供するAIプロダクトサービスとして、非定型帳票対応のAIOCR「Flax Scanner（フラックス・スキャナー）」、音声認識AI+自然言語処理「Rossvoice（ロッサボイス）」、文章を理解するAI「Aurora Clipper（オーロラ・クリッパー）」を紹介した。また、同社では幅広いプロジェクトの知見を基に、国内保険会社の生産性向上のための情報発信を行っているとした。

家田副社長はまず、同社の会社概要について触れ、「創造あふれる世界を、AIと共に」をミッションに掲げていること、経団連が推進するAI活用戦略に基づく社会・産業・企業のAI Ready化の支援や、コスト削減ではなく競争戦略としてのAI活用を通じた企業のDX推進に注力していることなどを説

明した。また、同社ではDXを「事業と組織の変革、意識と制度の改革を経営視点で遂行し、新しい価値、サービス、ビジネスモデルを創造すること」と捉えているとし、「DXを推進するためには経営層のリードが不可欠だ」との考えを示した。続いて、保険業界におけるDXのキーポイント

### AI活用戦略「ハーベストループ」紹介

として、①チャネルの拡大（タッチポイント、パートナー）②プロダクトの進化（リスク分析、パーソナライゼーション）③データドリブンの組織文化の3点を挙げ、それぞれ詳しく解説。①では、「保険をより簡単に

購入したい」という消費者のニーズは不可逆で、より便利で簡単に保険が購入できる方向に変わっていくことから、保険購入のチャネルやパートナーはますます拡大している

と述べた。DXの実現に向けて同社が提唱するAI活用戦略「ハーベストループ」は単なる技術活用ではな

は、データ取得からエンドバリューまでを一気通貫で行うループ構造を作り、永続的にAIのモデル開発を行うことで競争力あるいは競争優位性に転化するものだとし、「このモデルを活用すると、AIがどのように強化されていくかがビジネスアル化され、より理解することが可能だ」と述べた。

その上で、米国のレモネード社のUX（ユーザーエクスペリエンス）向上の取り組み、自動車保険提供者向けに保険申請ソリューションを提供している米国のClaim Genius社の業務効率改善の取り組みなどについて、「ハーベストループ」に基づいて考察した。

最後に、「ハーベストループ」を軸にした新規事業推進や組織変革推進の他に同社が提供するAIプロダクトサービスとして、非定型帳票対応のAIOCR「Flax Scanner（フラックス・スキャナー）」、音声認識AI+自然言語処理「Rossvoice（ロッサボイス）」、文章を理解するAI「Aurora Clipper（オーロラ・クリッパー）」を紹介した。また、同社では幅広いプロジェクトの知見を基に、国内保険会社の生産性向上のための情報発信を行っているとした。